

## 漁場及び漁村で使用される「苧」について

「苧」の文字は「チヨ」または「ド」と読む（『広辞苑』『新大字典』）が、からむしの茎から採取した繊維は青みをおびているため、「あおそう」と呼び「青苧」の文字を充てている。漁場では苧麻繊維から作った糸を総称して「岩糸」と呼び、その太さ（強さ）を表現する手段として「苧」の文字が使われ、「5枚苧、6枚苧」などと呼称する。

更に「苧」は糸を表現する言葉（単語）として、通常網類に使用される。糸は綿・麻を問わず次のように呼ばれた。

- ・ 網と網を結付する糸 …………… カラミ苧
- ・ 網と網を縫合する糸 …………… カラミ苧
- ・ 網の両端に補強のため通す糸 ……… 耳苧
- ・ 羽交に用いるもの …………… 羽交苧
- ・ 浮子（あば）を取り付ける糸 ……… あば付苧
- ・ 網の修理に用いる糸 …………… 給理苧
- ・ 棚網に網を結付する糸 …………… 足掛苧

その他糸を使用する時、その使用目的によって「〇〇苧」と呼ぶ。また網地（結節網地）を編む糸～網苧が転訛し、当地方では「アンジョ」と呼ぶ。

\* 岩糸の太さ（強さ）を表現する「枚」は、半枚素（糸）を最少とし、12枚位までである。これは昔、凧をあげるのに必要な麻糸の太さを、美濃半紙何枚張りかの凧の大ききで呼んだことが習慣となってきたものだという。

（伊吹群作原著・川崎毅一改稿 新版『漁網集覧』より）